



治療中の育児について

□ 患者さんが感じる不便さには

「治療による副作用が出てしまい、
子どもの面倒を見るのが辛い」

「通院中に子どもを預ける人がいない」

などがあります。

□ 治療の副作用をコントロールしましょう

- 治療の副作用のために、休息が必要となり通常通りに育児ができない場合があります。副作用は薬剤で軽減することが可能です。まずは、遠慮なく症状を医師、看護師に伝えてください。
- 化学療法の場合は1コース目の副作用の出現パターンを把握することで、辛い時期をある程度予測することができます。辛い時期に、ご家族や友人などのサポートをお願いすると良いでしょう。

□ 生活の工夫

• 安心して育児を任せられるサポーターを見つける

治療による副作用や通院、入院などにより、一時的に育児ができなくなります。安心して預けられるサポーターを見つけておきましょう。通院や入院が必要な保護者に対し、各自治体で一時預かりや一時保育を行なっています。またファミリーサポート制度で、サポーターを探すこともできます。詳細は各自治体のホームページや相談窓口でご確認ください。通院中の方は外来の待ち時間があり、時間通りに診察が受けられない場合がありますので、医師と相談し、診察の予約時間を調整しましょう。

また、お願いする保育時間を長めに設定すると良いでしょう。治療後も経過観察で定期的に通院が必要となりますので、サポート体制を整えておきましょう。

• 育児以外の家事支援を受けて、負担を軽くする

生活上、なんらかの支援が必要な方に対して、家事支援を行っている自治体や団体があります。有料の家事サービスを提供する企業もあります。育児をするための体力や気持ちを保つために、ほかの家事を支援してもらうこともひとつの方法です。